

elysia[•]

xpressor





使用上の注意



注意：温度

- 感電の危険性があります。
- シャーシを空けないでください。
- 問題が発生した場合は、正規のサービススタッフへお問い合わせください。
- 電源を入れる前に、正しい電圧が選択されていることを確認してください。
- ヒューズを交換する際には必ず同じタイプ、同じ容量を使用してください。
- この機器は必ずグラウンドへ接続する必要があります。
- 破損した電源コードを使用しないでください。
- 機器の上や近くに、花瓶や飲料など液体を置かないでください。
- 雨に濡れる場所や、湿気がある場所は避けてください。
- 水の近く（湿った地下室やプール、バスタブ）での使用は避けてください。



注意：温度

- 動作中、デバイスの表面が高温になることがあります。
- ラジエーターやストーブのような熱源のそばに設置しないでください。
- ユニットの周りは常に空気が循環するための十分なスペースを確保して下さい。
- 背面の循環口を塞がないでください。



注意：接続と設置

- 決してパワーアンプの出力を機器に接続しないでください。
- ユニットは固いボードの上もしくは適切なラックに設置してください。
- マニュアルに記載されている使用方法に従ってください。



注意：湿気

- このユニットは寒い場所から暖かい場所へ移動した際、内部に結露が発生する事があります。ユニットへのダメージを避けるために、電源を入れる前にユニットが室温に達するまでお待ちください。

コンプレッサーワンダーランドへようこそ！

まず初めに、新しいダイナミクスツールにXpressorをお選びいただき、ありがとうございます。あなたは最高の選択をしました。

この非常に多彩なステレオコンプレッサーはあなたに再びダイナミックな時間を与えてくれるでしょう。我々の主力製品から厳選してピックアップしたユニークな機能により、あなたは素晴らしいコンプレッションを得るだけでなく、未だ体験したことのないプロセッシングコントロールも同時に得たことになります。

Xpressorを何も設定せずに使用するも、コンプレッションの極意へ深く飛び込んでいくもすべてあなたの自由です。シグナル・パスは忠実なクラス-Aモードのディスクリート回路によって設計されており、非常にパンチの効いたクリアでオープンな音質を提供します。

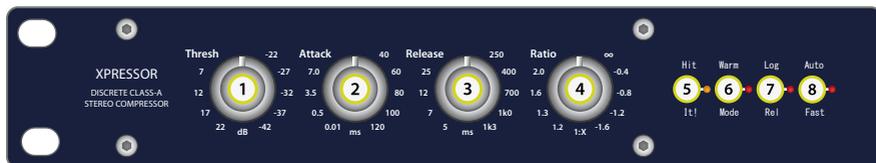
ステレオバスコンプレッション、単一信号処理、独創的な方法でのダイナミクスへのアプローチにより、Xpressorは様々なアプリケーションの中でも異彩を放っています。elysiaのベストはあなたが手に入れました！

Index

Controls	4
Connectors	6
Auto Fast	7
Log Release	8
Warm Mode	9
Negative Ratios	10
Gain Reduction Limiter	11
External Sidechain	12
Technical Details	13
CE Conformity	13
Warranty Info	14
Legal Info	15
 Deutsches Handbuch	16
 Manuel Français	30



Controls



- ① **Threshold (スレッシュヨルド)** : 入力レベルがこのコントローラで設定された値を超えるとコンプレッサーが動作します。
- ② **Attack (アタック)** : コンプレッサーの反応速度。Xpessorのゲインリダクションが10 dBに達するのに必要な時間を決定します。
- ③ **Release(リリース)** : コンプレッサーの効果時間を設定できます。これは、xpressorのユニティーゲインが設定したスレッシュヨルドを下回るまでの時間を制御します。
- ④ **Ratio(レシオ)** : 入力レベルと出力レベルとの比率。Xpessorの特徴であるネガティブレシオもここで設定できます。(P.10)
- ⑤ **Hit It!** : xpressorの機能をアクティブにします(LED点灯)、消灯時には物理的にバイパスされますが、GRメーターはアクティブのままです。
- ⑥ **Warm Mode** : 周波数スペクトル、ハーモニクスと過渡応答を変化させることによって、音質に「色」を加えることができます。
- ⑦ **Log release (Log リリース)** : リリースカーブを通常の直線的なリリース特性とは異なる対数型の特徴カーブに切り替えます。(p.8)
- ⑧ **Auto Fast** : セミオートモード。この機能は、高速で大音量の入力信号に対して自動的にアタックタイムが短縮され、その後、コントローラで設定した値に戻ります。(p.7)



- ⑨ **GRL LED** : ゲインリダクションリミッターアクティビティを表示します。このLEDが点灯している場合は、入力信号ではなく、ゲインリダクションリミッティングされた結果が表示されます。（P.11）
- ⑩ **ゲインリダクションメーター** : ゲインリダクションプロセスを表示します。ゲインリダクションの圧縮量をデシベルで視覚的に表示します。
- ⑪ **サイドチェインフィルター (SCF)** : 調整可能なローカットフィルターがxpressorのサイドチェインに搭載されており、ミックスが低域成分を多く含んでいると、オーバーコンプレッションやポンピングを防ぐことができます。
- ⑫ **ゲインリダクションリミッター(GRL)** : コントロールボルテージ幅を制限します。この革新的なリミッターは、通常のオーディオ回路には配置されておらず、コンプレッサーの制御回路に組み込まれています。（P.11）
- ⑬ **ゲイン** : xpressorのコントロールによって生じた、音量の変化を調整できます。
- ⑭ **ミックス** : 原音と圧縮された信号は、ミックスコントローラーを調整するだけで、好みの割合でバランスをとることができます。つまり、パラレルコンプレッションが1台で完結できます！

Note:

ステレオの操作で両方のチャンネルは常に同時に処理されますのでご注意ください。1つのチャンネルにバスドラム、もう1つにシンセパッドのような全く異なった信号を入力した場合、いわゆる「デュアルモノ」のような効果は生まれません。つまり、入力する信号はステレオ素材である必要があることを意味します。



Connectors



- 1 Audio inputs (XLR and 1/4" phone jack)
- 2 Audio outputs (XLR and 1/4" phone jack)
- 3 Sidechain send: EXT 2 (1/4" phone jack)
- 4 Sidechain return: EXT 1 (1/4" phone jack)
- 5 Mains connector/power switch/fuse holder
- 6 Voltage selector

モノラル動作 : いずれかの入力と出力1または2のどちらかを接続します-両方とも同じように動作します。

ステレオ動作 : 両方の入力と出力1と2を接続します。どちらのチャンネルを左と右のどちらにするかはあなた次第です。

Inputs (+4 dBu)

XLR balanced:	Pin 1: ground	Pin 2: hot (+)	Pin 3: cold (-)
XLR unbalanced:	Pin 1: ground	Pin 2: hot (+)	Pin 3: ground
Jack balanced:	Sleeve: ground	Tip: hot (+)	Ring: cold (-)
Jack unbalanced:	Sleeve: ground	Tip: hot (+)	Ring: ground

Outputs (+4 dBu)

XLR balanced:	Pin 1: ground	Pin 2: hot (+)	Pin 3: ground
XLR unbalanced:	Pin 1: ground	Pin 2: hot (+)	Pin 3: idle
Jack balanced:	Sleeve: ground	Tip: hot (+)	Ring: ground
Jack unbalanced:	Sleeve: ground	Tip: hot (+)	Ring: idle

Fuses (2 pieces)

230V operation: 100mA slo-blo

115V operation: 200mA slo-blo

Auto Fast モード

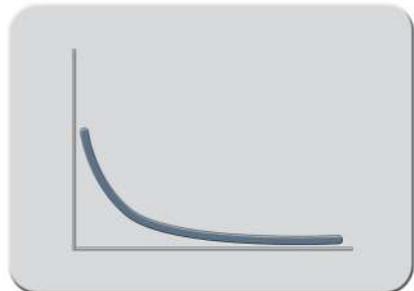
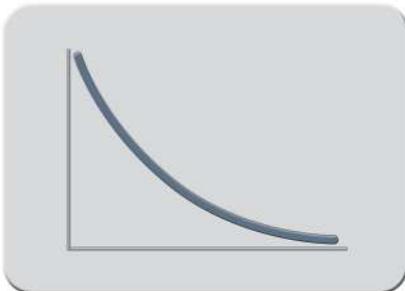


アタックタイムの設定はコンプレッサーの動作を決定づける非常に重要な要因です。従って、適切なアタックタイムの設定がとても大事になります。しかし、扱う素材によってはこれが困難な場合もあるでしょう。

非常に速いアタックタイムが設定されれば、コンプレッサーは素早いピークをとらえることができます。しかしその一方で、持続音も同じように処理されてしまうため、ディストーションが発生してしまう可能性があります。アタックアタイムを長めに設定すれば、ディストーションを大幅に低減することができますが、これでは素早いインパルスに対応することができません。

ここで役立つのがこのAuto Fast機能です。例えば長めのアタックタイムを設定し、Auto Fastモードをアクティブにすると、高速で大音量の信号に対してのみアタックタイムが自動的に短くなります。これにより、コンプレッサーは素早くて大きいトランジェントを確実にとらえることができ、逃してしまうことを防ぎます。

その後、アタックタイムは自動的に元の設定に戻ります。Auto Fastモードでは、本当に必要な時にだけ非常に素早いコンプレッションを行うことが可能なのです。



Log Release 特性

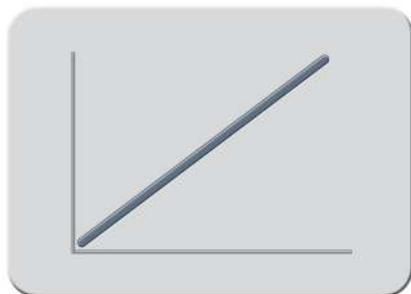
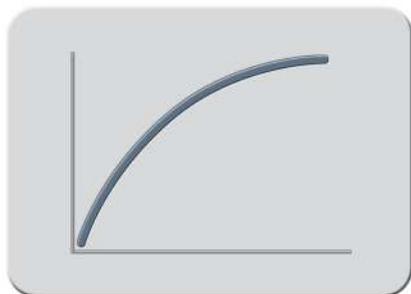


リリースタイムの設定は、コンプレッションの効果を強調したものにするか、あるいは自然なものにするか、という点に強く影響を与えます。

1種類のためのリリース特性では様々な素材に対応することは困難なため、xpressorでは対数カーブ型 (Logarithmic) とリニア型の2種類のリリース特性を選択できます。

対数カーブ型の特性は、ゲインリダクションの量が増えれば増えるほど時定数が短くなる (リリースタイムが速くなる) というものです。この特性の有利な点は、短くて音量の大きなピーク信号には速いリリースタイムが適用され、それ以外の信号には緩やかなリリースタイムが適用されるという点です。そのスムーズなパフォーマンスは、一般的にマスタリングやステレオバスコンプレッションでの使用に向いていると言えます。

一方でリニア型の特性は、対数カーブ型の曲線的な特性とは異なり、直線的なリリース特性を持っています。リニア型はドライ信号にアグレッシブなダイナミクスコントロールを加える際や、ディケイの短い信号を処理するのに最適です。



Warm モード

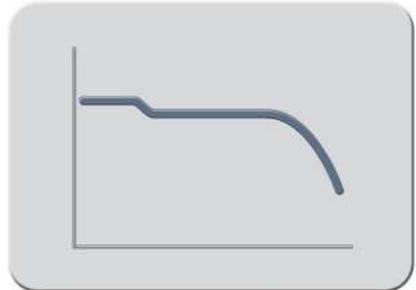
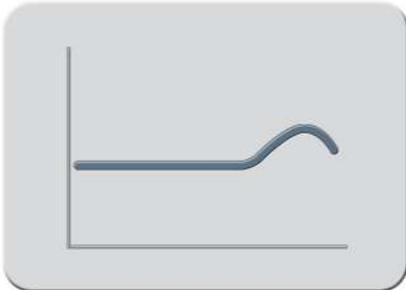


Warmモードの基本原理は、アンプ出力段のスピードを減衰させるスローレートリミッターです。このモードをオンにすることにより、周波数スペクトル、ハーモニクス、そして過渡応答に同時に影響を与えることができます。

素早いトランジェントは少しだけ抑えられ、全体としての音は丸みを帯びて、一体感が生まれます。この機能は出力段の動作に影響を与えるため、コンプレッションを含めた全体の音質に影響を与えます。

xpressorは、ディスクリートA級回路による透明感のあるコンプレッションと周波数レスポンスを活かした通常モードと、Warmモードのあえてサチュレーションされた濃厚なサウンドの2種類をボタン一つで切り替えることができます。

選択はあなた次第です：透明感のあるコンプレッションと周波数レスポンスを求める場合は標準モードでxpressorを使用してください。もう少し太くジューシーなサウンドを得るには、Warmモードボタンをhitしてください。





Negative Ratios (ネガティブレシオ)

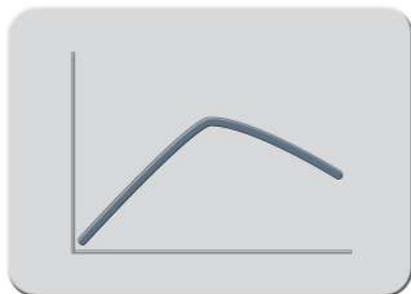
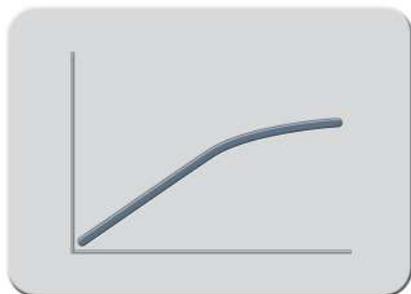


ネガティブレシオ—この言葉を初めて耳にされる方も多いかと思います。この機能をしっかりと理解するために、“通常の”コンプレッサーのレシオコントロールの働きを一度確認してみましょう。

- 1:1 信号に変化はなく、コンプレッションも行われません。
- 1:2 入力信号がスレッシュホールド値を超えると、例えば入力段における2dBの増幅は出力段で1dBの増幅になるよう圧縮されます。
- 1:∞ 入力信号がスレッシュホールド値を超えると、インプットにどれだけ大きな信号が入力されても、アウトプットされる信号がスレッシュホールドレベルを超えることはありません。

一方のネガティブレシオは、入力信号がスレッシュホールド値を超えると、アウトプットの特性格ープは下降方向へと曲がり、レベルの減衰が始まります。つまり、入力信号が大きくなればなるほど、アウトプットで出力される信号は小さくなるのです。これは、グルーブ感に富んだコンプレッションを演出するには最適なエフェクトです。

この極端な“破壊”とも呼べる機能を有効に活用するには、合わせてゲインリダクション・リミッターを使用することが鍵となります。使い方次第で、xpressorの可能性は無限に広がります。



Gain Reduction Limiter (ゲインリダクションリミッター)



xpressorの特色であるゲインリダクション・リミッターは、コンプレッサーのコントロールボルテージ幅を制限することができます。このリミッターは、通常のオーディオ回路には組み込まれておらず、コンプレッサーの制御回路に組み込まれています。

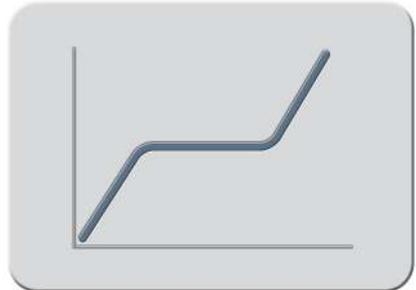
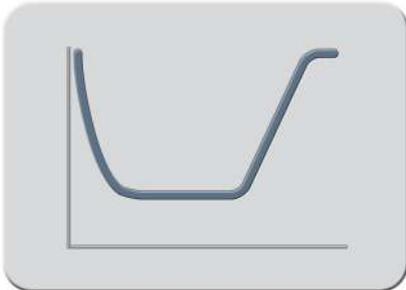
ゲインリダクションリミッターがアクティブにされると、ツマミの設定に従ってコントロールボルテージ幅を制限します。これは、どれだけインプットレベルが大きくなっても、ゲインリダクションの量はツマミで設定された値を超えるがないということを示しています。

GRL機能は、2つめのスレッシュホールド・コントローラーだと考えることもできます。一つめの通常のスレッシュホールドがコンプレッション動作の始まるタイミングを決定する一方で、GRLコントローラーはコンプレッション動作のリダクション量がそれ以上増えないタイミングを決定します。

アレンジの中でレベルの大きい音も、ゲインリダクション・リミッターで設定された値を超えて圧縮されることはありませんので、そのダイナミクスを維持することが可能です。

Note :

xpressorにおいてGRL機能は常時アクティブ状態となっており、この機能を有効にするためにスイッチ等の設定は必要ありません。





External Sidechain(外部サイドチェーン機能)



外部サイドチェーン機能を利用することで、コンプレッションをオリジナルのオーディオ素材から完全に独立させて制御することが可能です。xpressorの外部サイドチェーン入力に追加のオーディオ素材が入力されると、メイン入力の信号ではなくサイドチェーンに入力された信号がトリガーとなり、コンプレッション動作が実行されます。

例えば、メインの入力信号を複製し、イコライザで処理を施してサイドチェーンに入力した場合、特定の周波数帯域に依拠したコンプレッション動作を実現することが可能になります。また、ほかの使用例としては、サイドチェーン入力にドラムマシンのバスドラムを接続し、音楽のリズムと一体となってポンピングするグルーブ感のあるコンプレッションを演出する方法などが挙げられます。

外部サイドチェーンの活用はクリエイティブな可能性を無限に秘めています。コンプレッションをタイミング通り正確にかけることもできますし、その真逆を行うことも可能です。そして、これらの設定はパラメータを調整しながらその場ですぐに変更することができます。それぞれの楽器は、リズムに呼応しながらミックスの中でより大きな空間を確保することが可能になり、平凡で静的なサウンドも、躍動的で面白いサウンドへと様変わりさせることができます。

外部サイドチェーン入力に加えて、xpressorはセンド出力を備えています。このセンド出力からはメインの入力信号がサミングされ出力されます。従って、例えばこのセンド出力をEQに通して外部サイドチェーン入力に戻してやれば、わざわざDAWやコンソールからサイドチェーン用の信号を出力せずに済みます。

Note :

サイドチェーン出力 (EXT2) からはメインに入力された左右の信号がサミングされたモノラル信号が出力されます。

Note :

外部サイドチェーン機能は、サイドチェーン・リターン (EXT1) に¼フォーン端子を接続することでアクティブになります。この機能を使用しない場合は、EXT1コネクタからジャックを抜いてください。

Technical Details(テクニカルデータ)

周波数特性 :	<10 Hz - 400 kHz (-3.0 dB)
ひずみ率 :	
THD+N @ 0 dBu, 20 Hz - 22 kHz, Mix 0 % :	0.002 %
THD+N @ 0 dBu, 20 Hz - 22 kHz, Mix 100 % :	0.006 %
THD+N @ +10 dBu, 20 Hz - 22 kHz, Mix 0 % :	0.003 %
THD+N @ +10 dBu, 20 Hz - 22 kHz, Mix 100 % :	0.056 %
ノイズフロア 20 Hz - 20 kHz (A-weighted) :	-94.0 dBu
ダイナミックレンジ 20 Hz - 22 kHz :	115 dB
最大入力レベル :	+21 dBu
最大出力レベル :	+21 dBu
入カインピーダンス :	10 kOhm
出カインピーダンス :	68 Ohm

CE Conformity



elysia GmbH, Am Panneschopp 18, 41334 Nettetal, Germany,
declares with sole responsibility that this product complies
with the following norms and directives:

- 2006/95/EG Low Voltage Directive (formerly 73/23/EWG or 93/68/EWG)
- 89/336/EWG EMC (Electromagnetic Compatibility) Directive
- DIN EN 55103-1 EMC of audio equipment - Emission
- DIN EN 55103-2 EMC of audio equipment - Immunity

This declaration becomes invalid by any unapproved modification of the device.

Nettetal, 01.07.2011 - Ruben Tilgner & Dominik Klaßen

Warranty Info

保証書裏面をご参照ください。

Legal Info

この文書の情報は、予告なしに変更される場合があります。製造業者によるいかなる種類の義務または保証と見なされることはありません。この文書の品質、適合性、正確性に関して、明示または黙示を問わず、いかなる保証も行われません。

製造者は、事前の通知なしに、いつでもこの文書および/または関連製品の内容を変更する権利を留保します。製造業者は、使用に起因するいかなる種類の損害、または本製品またはその文書の使用不能に対して責任を負いません。

この文書の情報は著作権の対象です。すべての権利、技術的な変更、および正誤表は予約されています。このマニュアルのいかなる部分も、著作権所有者の明示的な書面による許可なしに、いかなる形式または目的でも複製または送信することはできません。

elysiaおよびxpressorはelysia GmbHの登録商標です。このドキュメントに含まれるその他の製品名およびブランド名は、識別のみを目的として使用されています。本書で使用されているすべての登録商標、製品指定、またはブランド名は、それぞれの所有者の財産です。



This product is manufactured according to the 2002/95/EC directive. The purpose of this directive of the European Union is the Restriction of Hazardous Substances (RoHS) in electronic equipment in order to protect health and nature. Dispose separately!

Version 1.1 © 2014 elysia GmbH

elysia GmbH
Am Panneschopp 18
41334 Nettetal
Germany
info@elysia.com

Printed in Germany

